

生活見 NI

ロトパの鏡

子どもさんの働くママを何人も取材したことがある。小さい子供が何人もいれば、そりゃあ家の中は戦争。こっちは走り回るわ、あっちはおんがして泣き出すわ。近所の雷おやじみたいだ。「うるさい！」と怒鳴りたい衝動を抑えつつ話を聞くと、会社ではプライド高そうなバリキャリアママたちが口をそろえる。「差し伸べられた手は、意

ソフリエ



おじいちゃんに子育て知識

地を張らずにどんどん使う。じやないとやっていけません」だよねえ。というわけで、子

だくさんじゃなくとも、育児するパパ「イクメン」はもはや常識。何かと忙しい祖母は、もう充分駆り出されていることも多い。で、定年して時間のある祖父が「イクシイ（育爺）」と呼ばれ、子育てを助ける次なる人手として細光を浴びている。こんな資格もある。「ソフリ

エ」だ。NPO法人エガリテ大手前（東京・杉並）が、子育ての技術や知識を教える講座を修

了した「祖父」に与えているもの。きっかけは、同団体がおこなったアンケートだった。

「両親に子育てを助けてもらいたい母親、孫育てに参加したい祖父、でも心配で預けられない母親と祖母、という立場が浮き彫りに」（古久保俊嗣代表）。そこで今春から、祖父向けの子育て講座をスタート。すでに北九州市などで「ソフリエ」も誕生済みだという。そのうち「伯母リエ」とか、自分にもお孫が回ってきそうな予感も多少。

（ライター 福光 恵）